

MHC20 周年記念 2009MHC 登山講習・青少年登山学校 夏の常念岳(2857m)登山 報告

7月11日 AM6:30 豊科駅北、県安曇野庁舎駐車場に、参加者6名が集合。1台の車に乗り合わせ、一ノ沢登山口へ向う。AM7:30 登山口から一列縦列で登山開始。上空は晴れて山の稜線が望まれる。登山口から15分、樹齢400年の橡ノ木を祀る「山の神」で手を合わせ、安全登山を祈願する。ここから溪流沿いの森林帯の中、ウグイス、コマドリが鳴く、緩やかな登りの登山道を進む。



カラマツソウ



溪流上部、固い雪渓を登り、ニッコウキスゲ咲く山腹の巻き道を辿り、AM11:00 最後の水場に到着。辿り着いた水場は鉄砲水で荒れてしまっており、ここでの水補給を諦め、ひたすら胸突き八丁の急坂を登る。第一、第二ベンチで休憩しながら高度を上げると、木々の枝越しに前方空高く、豪快に聳える常念岳の姿が望まれる。PM12:30 常念乗越に登り出ると、眼前に大きく、天を突く槍穂高の峰々を望む。

横通岳へ登る



コマクサ



ミヤマダイコンソウ



常念岳の威容

常念小屋で昼食後、PM2:00 軽荷で、北に聳える横通岳 2767mへ向かう。低木帯を登り出ると展望が開け、西に乗鞍岳、御嶽山が望まれる。中腹から花崗岩の白砂礫帯のジグザグ路を登ると、高山植物の女王コマクサの群落に出会う。PM3:00 横通岳 2767mに全員登頂。山頂からは、北に大天井岳、燕岳、その後方に立山、剣岳が遠望できる。うららかな太陽の光の下、「山頂の憩い」に浸る。PM4:30 常念小屋に戻り、泊す。

12日高曇り、AM6:30 軽荷で常念岳山頂を目指す。花崗岩石がゴロゴロと積み重なった、急傾斜の登山道を登り、AM8:00 祠の建つ頂に全員登頂する。「バンザイ!」。30分程その喜びに浸り、AM9:45 常念小屋に引き返す。小屋内では、槍ヶ岳を望む特設ベランダで、熱いコーヒーを啜り、至福のひと時を過ごす。昼食を早めに摂り、AM11:00 お世話になった常念小屋に別れ告げ、下山を開始する。



順調な下りを続け、PM2:00 登山口に到着し、往路と同じように車に乗り合わせ、参加者の車の待つ県安曇野庁舎駐車場に向かい解散とした。「安曇野に颯爽と聳える常念岳と横通岳への登山は、心身ともにリフレッシュさせてくれる登山だった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則